

「温かい教室に」断熱材施す

地球環境考える富士見高普通科2年生



省エネで温かい教室にと、富士見高校（富士見町）普通科の2年生が14日、教室の天井裏に断熱材を施した。総合探究学習で地球環境について考える14人が作業。自分たちと、来年度以降教室を使う後輩たちのために、学習しやすい環境を整えた。（濱翔貴）

職人らと協力して教室の天井裏に断熱材を施す富士見高校の2年生

後輩が学習しやすい環境を

同校普通科2年生26人は、三つのグループに分かれてさまざまな総合探究学習を行っている。地球環境に関する班は「富士見まちづくりラボ」などと協力して太陽光パネルの設置など、身近でできることを検討。県内の学校で断熱材を入れた例を知り、後輩などたくさん生徒のためにもなると考え、まずは自分たちが生活する教室の改修を決めた。作業には町内の角大工務店が協力。4人の職人の指導で、天井のパネルを外して、足場を移動しながら約70平方メートルの天井に断熱材を敷き詰めた。生徒たちは職人から「遠い場所から入ると楽に作業できる」「木の棒を使って入れて」などのアドバイスを受けながら、1枚ずつ丁寧に設置していた。

初めて教室の天井裏を見た生徒たちは、楽しそうな表情でてきぱきと作業。休憩中は職人と会話を交わすなどして、建築業への理解も深めていたようだった。「天井裏は古い材木が組み合わさっていて、断熱材を入れるのに苦労した」という田中陽人さん（17）は「環境を整える大切さを学べた。教室の気温が変わるか楽しみ」と話していた。